

# エチオピア

## Federal Democratic Republic of Ethiopia

	2014/15年	2015/16年	2016/17年
①人口：9,340万人（2017年）			
②面積：114万km <sup>2</sup>			
③1人当たりGDP：863米ドル （2017年）			
④実質GDP成長率（%）	10.4	8.0	10.9
⑤消費者物価上昇率（%）	7.7	9.7	7.2
⑥失業率（%）	5.0	5.1	5.2
⑦貿易収支（100万米ドル）	△13,440	△13,858	△12,895
⑧経常収支（100万米ドル）	△7,402	△6,657	△6,528
⑨外貨準備高（グロス） （100万米ドル）	3,248	3,402	3,197
⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル）	19,092	21,511	23,492
⑪為替レート（1米ドルにつき、 エチオピアブル、期中平均）	20.10	21.11	22.41

〔注〕 年度はエチオピア財政年度（7月8日～翌年7月7日）。  
〔出所〕 ①～③⑤⑦⑧⑩⑪：エチオピア中央銀行2016/17年報、⑥：ILO、④⑨：IMF

2017年の実質GDP成長率は10.9%となり、前年の8.0%を上回り好調を維持した。建設部門が好調で、第二次産業のGDP構成比が初めて25%を超えた。慢性的な外貨不足が課題であり、中央銀行が2017年10月に対ドル為替を切り下げるなど対策を講じている。輸出は前年比1.4%増、輸入は5.5%減で、貿易赤字はわずかに減少した。繊維・縫製分野の投資先として注目を集めているが、まだ主要輸出品目には計上されていない。輸出はソマリア、輸入は中国が最大の相手国だった。外国投資件数は前年から半減した。日本との輸出入はともに前年より増加し、日系企業の新規進出案件もあった。

### ■引き続き高い成長率も、外貨不足が課題

IMFによれば、2017年の実質GDP成長率は10.9%となり、前年の8.0%を上回った。過去10年（2008～2017年）の年平均成長率は10%を超え、高い成長を維持している。2017年は、農業生産が前年のエルニーニョ現象が影響したとされる干ばつから回復し、工業は引き続き建設部門が成長を牽引、製造業も堅調だった。GDPの産業部門別構成比は、これまで10%台にとどまっていた第二次産業が初めて25%を超え、第一次産業36.3%、第二次産業25.6%、第三次産業39.3%となった。国際機関などは引き続き、製造業の伸長やインフラ投資の増加を見込んでおり、IMFは2018年の実質GDP成長率を8.5%と予測している。

高成長の陰で、地方における土地問題や経済格差が顕在化し、反政府活動が激化したことで2016年10月には非常事態宣言が発令された。同宣言は当初設定された期限

表1 エチオピアの需要項目別実質GDP成長率

	2014/15年	2015/16年	2016/17年
実質GDP成長率	10.4	8.0	10.9
民間最終消費支出	20.3	15.7	12.3
政府最終消費支出	19.2	27.2	28.0
国内総固定資本形成	27.0	15.1	20.3
財貨・サービスの輸出	△1.6	0.7	14.1
財貨・サービスの輸入	27.4	8.0	0.9

〔注〕 7月8日～翌年7月7日。

〔出所〕 エチオピア中央銀行からジェトロ作成

を延長したものの、2017年8月に解除された。この頃から国内では慢性的な外貨不足が深刻となり、信用状の決済遅延等もみられるようになっていたが、10月に中央銀行が通貨ブルを主要通貨に対して切り下げ（対ドルで15%）、政策金利を2%引き上げる措置をとった。外貨流入の増加を目指し、輸出企業には口座に継続保有できる外貨の割合を10%から30%に変更するなどの優遇政策も打ち出した。

### ■輸出増加で貿易赤字はわずかに改善

2016/17年度（2016年7月8日～2017年7月7日）の貿易は、輸出（電力輸出含む）が29億750万ドル（前年比1.4%増）、輸入が158億260万ドル（5.5%減）だった。

輸出では、コーヒー豆が品目別1位（構成比30.4%）で、金額ベースで前年比22.2%増、数量では同13.6%増と好調だった。その他の主要品目は、ゴマなどの油糧種子（構成比12.1%、26.4%減）と金（7.2%、28.2%減）は前年を下回り、覚醒作用のある植物のチャット（9.4%、4.0%増）は前年を上回った。豆類（9.6%、20.5%増）は前年に続き輸出が拡大し、花き（7.2%、3.0%減）、皮革製品（3.9%、1.1%減）は前年より減少した。なお、中央銀行のドル建ての発表では、繊維・縫製製品はまだ主要品目として区分されていない。

国別では、隣国ソマリアが中国を抜いて最大の輸出相手国（構成比9.2%）となった。主な品目は、チャット、

表2 エチオピアの主要品目別輸出入&lt;通関ベース&gt;

(単位:100万ドル、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)				
	2015/16	2016/17			2015/16	2016/17			
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率	
コーヒー豆	723	883	30.4	22.2	原材料	149	126	0.8	△15.9
油糧種子	477	351	12.1	△26.4	半完成品	2,896	2,621	16.6	△9.5
金	291	209	7.2	△28.2	肥料	430	368	2.3	△14.4
チャット	263	273	9.4	4.0	燃料	1,339	1,824	11.5	36.2
豆類	232	280	9.6	20.5	石油製品	1,280	1,744	11.0	36.2
花き	225	219	7.5	△3.0	資本財	6,829	6,032	38.2	△11.7
生きた動物	148	68	2.3	△54.2	輸送資本財	1,536	1,430	9.0	△6.9
皮革・その製品	115	114	3.9	△1.1	農業資本財	83	76	0.5	△9.1
肉・肉製品	96	99	3.4	2.3	工業資本財	5,210	4,527	28.6	△13.1
果実・野菜	54	56	1.9	4.5	消費財	5,264	4,898	31.0	△7.0
電力	32	73	2.5	133.0	耐久消費財	1,567	1,708	10.8	9.0
その他	212	283	9.7	33.4	非耐久消費財	3,697	3,191	20.2	△13.7
合計 (その他含む)	2,868	2,908	100.0	1.4	合計 (その他含む)	16,725	15,803	100.0	△5.5

〔出所〕エチオピア中央銀行

野菜・果物、食肉用家畜、豆類だった。中国（7.8%）向けは油糧種子が前年から大きく減少したが、皮革製品、コーヒー豆、鉱石（ニオブ鉱、タンタル鉱）、天然ゴム、履物など幅広く輸出している。スイス（7.2%）には金、コーヒー豆、油糧種子、繊維・縫製製品、食料・飲料品等が輸出された。

輸入は資本財（構成比38.2%、11.7%減）と消費財（31.0%、7.0%減）がともに減少し、燃料（11.5%、36.2%増）が増加した。近年、国内の燃料需要が毎年10%程度増加していることに加え、国際価格が上昇したことで前年より大幅に増加した。

国別にみると、中国が最大の相手国（構成比31.7%）で、航空機部品、金属製品、電気機器、自動車、繊維・衣類など多岐にわたる。続くインド（7.4%）からは金属製品、穀物、肥料、航空機部品含む機械・器具を輸入し、米国（6.5%）からは、航空機・同部品（エンジンなど）、小麦、電気機器、肥料、自動車を輸入した。

### ■繊維・縫製分野への投資が活発化

エチオピア中央銀行によれば、2016/17年度の外国投資件数（申請ベース、現地法人のみ、稼働状況にあるもの）は43件となり、前年度の80件から半減した。投下資本も前年度比51.6%減の6億200万ブルとなった。なお、UNCTADは、2017年のエチオピアへの直接投資流入を前年比10.1%減の35億8,600万ドルとしており、アフリカ大陸ではエジプトに次ぐ直接投資流入だった。エチオピアは、新興国や開発途上国間の繊維・縫製分野の投資が活発になる中、工業団地の整備や安価な労働コストなどで新規の投資先として注目を集めている。「フィナンシャル・タイムズ」紙の調査部門FDiインテリジェンスによると、2017年には、エベレスト・テキスタイル（台湾）、

無錫金茂對外貿易有限公司（中国）、サラサビ・エキスポート（スリランカ）、レイモンド・グループ（インド）、無錫一綿紡織集団（中国）などの繊維・縫製関連企業が新たな投資案件で、多くは、ハワッサ工業団地（南部諸民族州）、コンボルチャ工業団地（アムハラ州）、ディレダワ工業団地（ディレダワ特別市）といった国内各地の工業団地に入居するとされる。徐々に欧米諸国からの投資もみられるようになっており、繊維・縫製分野では2017年にカルビコ（イタリア、テキスタイル製造）、トライバグループ（米国、縫製）が進出を決めた。なお、この他、エナジーグループ（米国、燃料節約機器・サービス）、ポルトモルト（ベルギー、製麦）、オンテックス（ベルギー、おむつ製造）、シカ（スイス、化学品製造）など、投資分野に拡がりもみられる。

### ■日本との輸出入はともに増加、新規進出も

日本の対エチオピア貿易（通関ベース）は、輸出が前年比9.6%増の1億1,373万ドル、輸入は同43.3%増の1億1,079万ドルとなった。

輸出では、前年大きく落ち込んだショベルカー（構成比20.1%）が前年比3.6倍と大きく伸び最大品目となった。鉄・非合金鋼フラットロール（幅600mm以上、構成比13.1%）、鉄・合金鋼フラットロール（幅600mm以上、2.6%）も前年比32.1%増、同86.0%増となり、輸出拡大に寄与した。乗用車（構成比14.9%、前年比77.6%増）は、排気量2500cc超が好調だった。一方で、貨物自動車（8.5%、59.3%減）、モーターサイクル（50cc超250cc以下、6.5%、13.0%減）、自動車部品（4.0%、25.5%減）は減少した。

輸入では、コーヒー豆（非焙煎）が全体の約8割を占める傾向が続いた。2017年は前年比51.8%増と大きく伸

表3 エチオピアの対日主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位：1,000ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2016年	2017年				2016年	2017年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
ショベルカー	5,020	22,846	20.1	355.1	コーヒー豆 (非焙煎)	61,449	93,275	84.8	51.8
乗用車	9,524	16,917	14.9	77.6	ゴマ	5,298	6,406	5.8	20.9
鉄・非合金鋼フラットロール (幅600mm以上)	11,256	14,866	13.1	32.1	バラ (生鮮)	1,020	2,314	2.1	126.8
貨物自動車	23,631	9,615	8.5	△59.3	植物の葉・枝	2,584	2,122	1.9	△17.9
モーターサイクル (50cc超250cc以下)	8,496	7,393	6.5	△13.0	コーヒー豆 (焙煎)	2,251	1,976	1.8	△12.2
自動車の部品、部分品、附属品	6,127	4,565	4.0	△25.5	綿製Tシャツ	623	1,094	1.0	75.6
バス (ディーゼル)	5,564	4,557	4.0	△18.1	植物の挿し穂・接ぎ穂	577	937	0.9	62.4
鉄・合金鋼フラットロール (幅600mm以上)	1,574	2,928	2.6	86.0	コーヒー豆 (非焙煎、カフェインを抜いたもの)	848	868	0.8	2.4
製織機械 (織幅30cm超)	2,459	2,554	2.2	3.8	植物性ろう、密蝋	314	626	0.6	99.4
重量測定機器	n.a.	2,244	2.0	全増	貴石、半貴石	274	189	0.2	△31.0
ゴム製タイヤ (新品)	1,105	1,916	1.7	73.4	ニオブ鉍、タンタル鉍、バナジウム鉍及びジルコニウム鉍 (精鉍を含む。)	191	158	0.1	△17.3
医療用機器	193	1,638	1.4	748.2					
合計 (その他含む)	103,738	113,729	100	9.6	合計 (その他含む)	77,299	110,787	100	43.3

[出所] 財務省貿易統計

びた。日本のコーヒー豆の輸入量は前年から減少したが、エチオピアは調達先上位国の中でコロンビア同様に数量・金額ともに取扱いを増やした。エチオピアは日本のコーヒー豆 (非焙煎) の輸入元としては5位となった。コーヒーに次ぐ輸入品目であるゴマ (構成比5.8%)、バラ (生鮮、構成比2.1%) も前年比20.9%、同2.3倍と増し輸入拡大に寄与した。

日本外務省によれば、2017年10月時点の在留邦人は

225人、進出日系企業数は12社となっている。2017年8月にはYKKが駐在員事務所を開設したほか、日本たばこ産業 (JT) の子会社JT インターナショナルが前年のナショナルタバコの株式40%取得に続き、12月に株式30% (4億3,400万ドル) を追加取得した。日系製造業の進出に備えようとトモニアスは2017年6月にエチオピア投資委員会とボレレミ II 工業団地内の日本特別ゾーン開発と運営に関する覚書に署名した。